

公表

## 事業所における自己評価結果(児発)

事業所名	こども発達・子育て支援センター わくわくかん				公表日	令和 8 年 2 月 25 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	15		基準以上のスペースを確保し、利用児が快適に過ごせるよう配慮しており、広い園庭や芝生広場、開放的な遊戯室（ホール）や指導訓練室を確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15		配置基準は管理者、児童発達支援管理責任者、利用児 4 人に対し、1 人の職員配置です。加えて児童指導員等加配職員、専門的支援体制、中核機能強化加算をとっており、保育士、児童指導員（社会福祉士）、公認心理師、OT、ST、看護師、栄養士等を配置し、配置基準よりも多くの職員配置を行っています。今後も丁寧な支援を行いながら支援の質の向上、関わりの工夫を職員間で行っていきたくと考えています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15		事業所内は全て、段差がない構造化になっています。部屋の扉の横にどんな部屋か視覚にわかりやすく絵で表示しています。活動やその日の流れが分かりやすいようにタイムスケジュールを張り、見通しが持てるよう配慮しています。トラップボリンに上がる階段も柔らかい高ウレタン素材の階段にし、遊具の周りにはマットを敷く、角や鉄の棒にはガードをする等安全面にも配慮を行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		利用児が使用した時間後には毎日清掃を行い、整理整頓をしています。また、遊具やおもちゃ等毎日アルコールで拭き消毒を行い、室内にも消毒用アルコールを設置しています。子どもたちの活動に合わせて部屋をわけて集団活動を行い、全体での活動は広い部屋で行うなど工夫しています。	おもちゃの置き場や遊ぶ場所などが雑多となることがあるので、発達段階や種別に分けるなどおもちゃ倉庫の整理や遊びの空間の工夫やを考えて、より状況になった環境を整えていけるよう改善していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15		個別の部屋や場所が使用できるよう、部屋は多くあり、認められる環境にもなっています。遊戯室にもクールダウンできる空間があります。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15		クラス会議等を通じ、参画し、支援しています。	足りない面もあると思うので、今後もPCDAサイクルを意識し、取り組んでいきたいと考えている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		保護者向けの評価を実施・活用し、保護者の方からのご意見やご意向を把握し、意向等を踏まえ、支援の改善、質の向上、業務改善につなげていけるよう努めています。	今後も、保護者の意向等踏まえ、より一層業務の改善、支援力の向上に努めてまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		終礼やクラス会議、職員会議、面接等を行い、職員の意見を把握する機会を設けており、業務改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15		地域の民生委員児童委員の方に評価をいただき、その結果を踏まえて業務改善につなげていけるよう努めています。	より地域との交流につながっていければとのこと意見をいただいております。地域移行や地域支援につながる取り組みを検討していければと考えております。今後も、外部評価の意見を踏まえ、業務の改善に努めてまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		法人内の研修への参加、事業所内研修の実施、こども園との合同研修の開催、外部研修への参加機会を確保しています。また、五種分析シートを活用し、支援の振り返りやスーパーバイズを行っている。	今後も、職員が法人内外の研修に参加し、支援力の向上、資質の向上を図れるよう取り組んでいきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15		支援プログラムを作成し、公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15		子どものアセスメントは職員間での日々の支援の振り返り、話し合いの中から課題や目標を設定し、保護者に関しては日々の送迎時にお話したり、電話相談や面談を行うなど、アセスメントを行って、保護者の困りや悩みの共有、ニーズの把握を行うことを通じて計画を策定しています。	今後も引き続き、アセスメント、モニタリングを通して、課題に対する評価や分析を行い、計画を作成していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15		終礼やクラス会議・職員会議等を行う中で、職員が共通理解のもとで子どもの最善の利益を考慮した検討を行うよう努めています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15		クラス会議・職員会議等で共有しながら計画に沿った支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15		五種分析シートの活用や育ちのミカタといったツールを用いたアセスメントや日々の関わりの中での行動観察を通じたアセスメントを行うことで確認しています。	育ちのミカタ（レーダーチャート）といったツールで研修は行っていますが、定期的な活用がまだできていないので、今後取り組んでいければと考えています。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15		5領域を踏まえた「本人支援」、「家族支援」「移行支援・地域支援・地域連携」の項目に対して、子ども一人ひとりであった、必要な支援目標と支援内容を設定しています。本人の日々の様子や発達特性、具体的な関わりを踏まえた具体的な支援内容になるように設定しています。	今後もツールを用いるなど、よりよい計画になるよう改善できる点があれば改善していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15		クラス会議を毎週行うことで、チームで活動立案を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15		職員同士、チームで話し合ったり、SNSなどを活用しながら、季節の活動や製作、粘土遊び、音楽遊びなどを取り入れたり、調理活動など企画しています。子どもたちの状況や必要に応じて一定期間固定する場合もあります。子どもたちの様子や状況を踏まえながら、活動自体に新しいものを取り入れていくことの視点も大事なので、子どもたちの発達や視点に立って、固定的な部分と新しいものを取り入れる工夫をしたり、子どもたちが活動に対する意識を高めていけるような活動になるよう取り組んでいます。	いろんな活動のプログラムを知る機会をさらに設けていけるよう、SNSなどの活用や研修参加なども今後も引き続き取り組んでいきたいと考えています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15		子どもの特性や発達段階でクラス分けをしています。集団の活動、クラスの小集団の活動、さらに通所期間や発達特性、対人意識の状況に応じて個別の活動を設けており、それに合わせた計画を作成し、支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		支援前(朝礼時等)にミーティングを行い、活動内容、個々の対応での留意点や個別対応の必要性のある児童へは担当を決めたり、グループリーダーやサブなどの役割分担を行うなど、職員間で確認をし、チームで連携して支援を行っています。	より細かな打ち合わせが日によっては送迎などが入っていたり等でできないこともあると思われるので、朝礼時に確認できるよう工夫したり、朝礼後支援開始までにより細かな打ち合わせができるよう意識して時間を作るなどクラス間で工夫できるように取り組んでいきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15		活動終了後ミーティングを行い、支援の振り返りや気付きを共有し、新たな支援方法等の共有・検討を行っています。その日にいなかった職員にも伝わるよう業務日誌に記載し、朝礼時に伝えるなどして情報共有をしっかりと行っていけるよう努めています。週に1回は必ずクラス会議を行っています。	その中でも足りない、できていない部分があるときは意識して話し合える時間を作る等、より細かく共有できるよう取り組んでいきたいと考えています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15		記録の確認係が、その日の利用児と記録があっているかの確認を行っています。記録をきちんととることや振り返りを行うことで、支援の検証、改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15		半年に1回はモニタリングを行い、計画を見直しを行っていて、必要に応じて計画の変更を行うようにしています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15		管理者・児童発達支援管理責任者や支援の現場でその子どもとの関係ができて職員が会議に参加して情報交換を密に行っています。	
25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15		地域の保健師からの相談を受けたり、支所で地域療育等支援事業を行っているため、保健師と連携して気になるお子さん家族への支援や利用状況などについて情報共有しています。また地域の保育園・幼稚園・こども園や他事業所を併行利用している利用児が多いので、送迎時の情報交換や保育所等訪問支援、施設支援を通して情報共有、助言等で連携した支援を行っています。	医療機関との連携体制をもう少しできるようになればと考えています	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15		インクルージョン推進の観点から、地域の保育園こども園幼稚園と併行利用や移行に向けた支援を推進しています。また、送迎時には情報交換を行ったり、必要に応じて支援会議を設けたり、担当者会議での支援内容の情報共有を行うことで、わくわくかんと園での支援の内容やかわり方、利用児の特性に応じた配慮などについて相互理解を図っています。		

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	小学校とは就学前に支援会議を行うなどし互いの情報交換や支援での配慮点などの共有を行い、就学する小学校への進学がスムーズに行えるよう連携を行っています。 特別支援学校とは入学前に支援内容等の情報提供書を作成送付し、情報共有を行っています。また、支援学校の見学会への参加や個別での見学会の相談や見学の設定を行うなど、保護者への就学に対する情報提供、支援学校への事前のニーズ把握等できるよう連携しています。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15	他の児童発達支援センターや事業所を併用利用しているお子さんについては情報共有やかかわり方の共有等を行っています。	今後も地域の中核的機能を果たしていくべく、地域のセンターや事業所との連携を図り、支援力の向上に取り組んでいきたいと考えています。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	15	積極的に外部研修の情報を掲示・回覧するなど、研修に参加できるようにしています。積極的に専門家からの助言も受けています。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	今年度から自立支援協議会子ども部会の部会に参加している。市障害福祉課と一緒に保育所等訪問支援連絡会を開催しました。	子ども子育て会議への参加ができなかったので、今後、研修会等を含め参加していければと考えています。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	15	ございこども園の祭りや活動などに参加することで交流を図り、地域の他の子どもたちと一緒に活動できる機会を設けています。	ございこども園との交流以外に、他園と交流する機会について、今後検討していきたいと考えています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	15	送迎時や電話等で、日頃の子どもの様子を保護者の方に丁寧に伝えるよう努めており、子どもの発達状況や課題についても、相談に応じたり面談を行うことを通じて共通理解をできるよう努めています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	週1回、木曜日の午前保護者の方向士が話し合いができる日を設けており、そこで保護者同士が悩みを話し合ったり、経験を伝えたり、公認心理師がファシリテーターとしてその話し合いに入ることで対応の仕方や家族支援を行っています。	講演会や大分県発達障がい者支援専門員(SV)派遣やペアレントメンターの活用することを通して、保護者支援の充実に取り組んでいければと考えています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	利用開始時の利用契約書や重要事項説明書の説明をする際に、丁寧な説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	子どもの意思の尊重や子どもの最善の利益を優先した観点で、日ごろの子どもの支援を行っています。計画作成する際だけでなく、保護者が相談したときには即対応できるよう努めており、丁寧に話を聞きながら、保護者の意向を確認する機会を設けています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	計画書を示しながら、5領域を踏まえた本人支援、家族支援、移行支援・地域支援等の項目別に支援内容を作成し、日頃の様子や成長したこと、どのような意図で支援しているかということを分かりやすく説明し、保護者から支援計画の同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	随時、子育て等の悩みや相談に応じ、必要に応じて支援会議を行ったり、臨床心理士との面談を設ける等を行っています。また、モニタリング時にも相談に応じ、助言等を含めた支援を行うよう努めています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	15	行事の際に保護者会を開催するなど保護者同士が連携できるよう支援しています。毎週木曜日の保護者ミーティングに参加している保護者の方々の交流は深まっているようです。 行事に兄弟児も参加してくれており、兄弟児同士のつながりができるよう取り組んでいます。	木曜日や行事以外での保護者同士の交流の場も検討していければと考えています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	保護者の方々からの相談は電話でも来所でも対応しており、できる限り迅速に対応しております。いつでも相談してくださいと保護者の方には周知しており、公認心理師や経験のある保育士等が相談に応じられるよう整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15	定期的にわくわくかんだより・クラスだよりを発行しています。行事予定や連絡等に関しては、コドモンやLINE、紙面で発信しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	細心の注意を払い、保護者の方にも個人情報の使用について担当者会議等情報交換など必要なときのみ情報共有させていただくことを了解していただくため、同意書をいただいています。毎日の朝礼で倫理綱領を全職員で読んでいます。その中に守秘義務の遵守があり、意識の徹底ができるよう心掛けています。個人情報がある文書に関してはカギのかかる棚に収納しています。	

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15		視覚的にわかりやすいように、文書にしたり写真を見せたり、サインや言葉のモデルを示したり、タイムスケジュール作成等、情報伝達の配慮を行っており、自分の意思を伝えやすい工夫を行っています。コドモンやLINE、電話など、ICTを駆使しながら、また保護者会などを通して、保護者の方々の思いや情報など伝えたり受け止められるよう配慮を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	3	まつり等の行事では、利用児の兄弟や祖父母も参加が出来るよう案内をしています。となりのこども園との交流はしています。地域の保育園の先生方の見学、オープンスクールを行うなど、外部の方の見学といった開かれた事業運営を図っています。	利用児が地域の方々とふれあう機会はなかなか持ちにくいので、どういった機会を持っていくのがいいか検討していきたいと考えています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15		事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しており、職員には皆が目をとることができるよう回覧したり、研修等を行うことで周知しており、保護者には利用開始時や保護者会等で周知させていただいておりますが、今後も周知できるよう、随時伝えるなどして工夫していきたいと考えています。また、事業所で事故等（怪我等を含む）が発生した際には、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について丁寧に説明し対応するよう取り組んでおり、発生を想定した訓練も行っています。	周知を行ってはいますが、保護者の中でもわからない等のご意見もいただいておりますので、より周知できるよう取り組んでいきたいと考えています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15		BCP（業務継続計画）を策定し、事業所内で研修・訓練を年に1回行っております。非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15		利用調査票に記入いただき、子どもの状況を確認、把握しています。服薬に関しては看護師が対応しており、子どもの状況が変化した時や服薬が変更したときは連絡をいただいたり、こちらから連絡しております。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15		食物アレルギーのあるお子さんに関しては利用前に医師の指示書をいただいております。看護師・栄養士、職員間で確認し、給食・おやつを提供を行っています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を行っています。日々、危険箇所がないかなどのチェックを行い、月に1回は安全確認のチェックリストでも確認するなど、安全管理を意識して支援を行っています。	それでもけがが起こることはあるので、その都度なぜけがをしたのか、どうすれば防げるのかなど、職員で検証して、より安全に子どもたちが過ごせるよう努めていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15		利用時の説明の際や行事での保護者会等で周知を行うようにしています。	なかなか十分な周知が行き届かない面もあるので、工夫していきたいと考えています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	1	ヒヤリハットの事案が起きた時は終礼や朝礼などで周知し、ヒヤリハットの記録も記載し、再発防止に向けて検討を行っています。	終礼等で周知したり、記録に残し、再発防止を心がけてはいるが、活かしきれてない状況もあると思われるので、朝礼終礼後に周知しても、さらに職員会議でもう1度周知しながら、再発防止に取り組んでいきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15		虐待防止委員会へ設置して、虐待の防止を徹底と職員への研修を行っています。外部の虐待防止に関する研修にも積極的に参加できるよう取り組んでおり、参加後の伝達研修も行っています。虐待防止につながる人員配置や支援に対するスーパーバイズなどにも手厚く配慮しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15		「身体拘束は行わない」という方針のもと、職員の人員配置も基準以上の配置をし、職員に対しての周知の徹底を行い、専門性の向上に努めています。しかしながら、安全上等やむを得ない状況になった際は、行動の制止することがあることを保護者の方に説明させていただき、児童発達支援計画に記載し、署名いただいております。		